

(1)児童の体力の現状

【5年生】
 ○8種目中男子が6種目、女子が5種目全国平均を上回った。
 ○男女ともに50m走と立ち幅跳びは、全国平均・県平均を大きく上回っている。男子はシャトルランも全国平均・県平均を上回っている。
 ●男女ともに長座体前屈が全国平均・県平均を下回った。柔軟性が課題である。女子は反復横跳びも全国平均・県平均を下回った。

【全校】
 ●県平均との比較で上回った種目数が、男子が約2/5、女子が約1/4であった。
 ○50m走は男子が全学年、女子も5学年で松江市の平均を上回った。
 ●反復横跳びは男子が4学年、女子が5学年で松江市の平均を下回っており、敏捷性に課題である。
 ●女子は上体起こし、ソフトボール投げの2種目で4学年が松江市の平均を下回った。女子は筋力および筋持久力と投力に課題が見られる。

(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

●数値目標としては、県平均以上の種目を1/2以上をめざしたが、上記のような結果となった。しかし、種目によっては県平均を下回っているものの、ほぼ平均に近いものや、昨年度より平均に近づいているものもある。今後は経年変化をしっかりと分析し、学年の傾向を把握し体育科の授業改善を図っていききたい。

○今年度の重点指導項目を「全身持久力」とし、全校で全身持久力を高める運動に力を入れて取り組んできた。10月に校内ロードレース大会を計画・実施し、2学期に入ってから大会に向けて全校共通の「宍道湖一周マラソンカード」を使った体力作りに取り組んだ。昨年度まで使用していたカードが子どもたちの実態に合わなくなっていたため、今年度は新しいカードを作成した。今後も改善を加え、子どもたちがより意欲をもって取り組むようなカードにしていきたい。

○体育館の壁に番号シールを貼り、体育の授業で子どもたちが「わたしたちの体育」などを置く場所をはっきりさせたことで、学習規律の徹底を図ることができた。

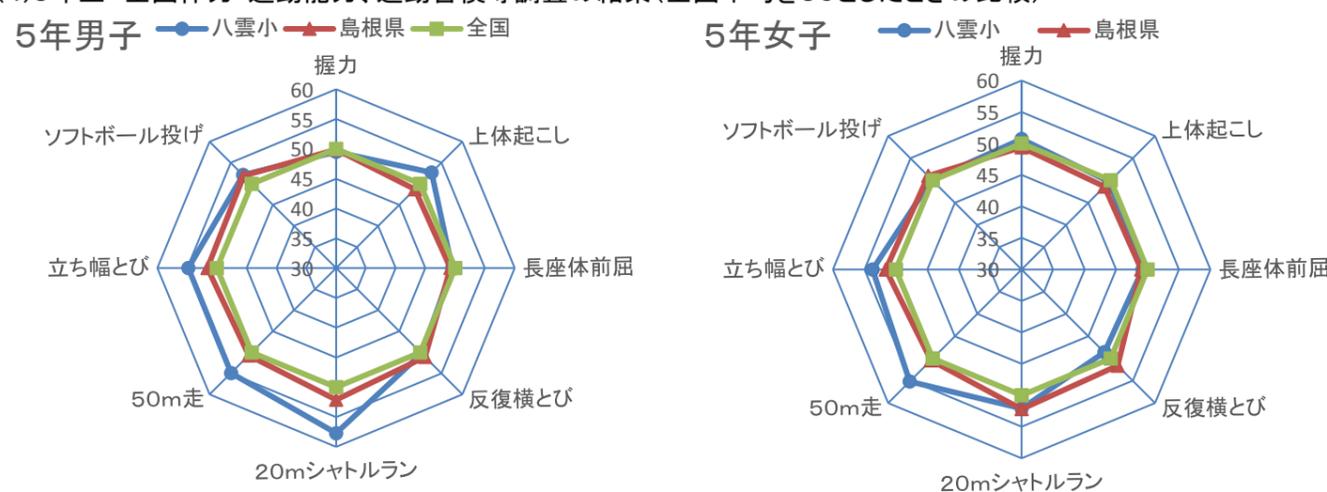
●「敏捷性」と女子の「投力」はここ数年の本校の課題である。体育科の授業の中で、それらを高める運動を意識した授業実践を心がけていく必要がある。

(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
 ・副読本「わたしたちの体育」(3年生以上採用)を授業の中で有効に活用し、日々の体育科の授業を充実させる。年度初めに体育科学習の共通理解を図り、全教職員が共通意識をもって子どもたちの体力作りに取り組むようにする。
 ・春の陸上練習(5・6年生)、秋のロードレース大会、冬のなわとび集会など、年間を通して子どもたちの体力作りを図る行事がある。それぞれの行事に向けて、子どもたちの意欲が高まり体力作りとして有効な活動となるよう工夫していきたい。
 ・外遊びの奨励と授業で使いやすい活用しやすい体育環境の整備に力を入れる。
- ②地域や家庭との連携による取組
 ・「限界に挑戦」(6年間の体力テストの結果を記入した個人カード)を家庭に通知し子どもたちの体力の現状を知らせるとともに、学校で取り組んでいることや家庭でも協力してほしいことなどの情報発信を積極的に行っていく。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 ・小中合同で行っている「すこやか健康チャレンジシート」の年3回実施と家庭への呼びかけを行う。
 ・栄養教諭や小中食育部との連携を図り、情報発信を行っていく。

調査実施者数(人) 1年(男子30・女子24) 2年(男子32・女子31) 3年(男子18・女子27)
 4年(男子34・女子38) 5年(男子23・女子32) 6年(男子37・女子31)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)

